

学校努力点テーマ 「タブレットを学習に生かす子どもの育成」

— タブレットの活用場面を明確にした授業づくりを通して —

2年 生活科「わたしの町はっけん」の実践

松原の町のお店や施設等の様子、働く人について、見学を通して調べました。その後、「まだ松原の町のことをあまり知らないであろう1年生に向けて、学んだことを発表する」という活動に向けて、「1年生に町のすてきが伝わるかどうか」という視点をもとに、学んだ情報の中から取捨選択をしながら準備し、発表を行いました。以上の学習を行うことで、地域への親しみや愛着を深めました。

○ よく考えるための手だて

① 自分の考えをもつ場面

タブレットのシンキングツール「PMI」を利用して、学んできた情報を、「学んだこと」「なぜ1年生に伝えたいか」の観点に分けて考えます。

② 対話をして、考えが深める場面

同じ場所に見学に行ったグループで集まり、1年生に伝える内容について検討します。①でもった自分の考えをもとに、「町のすてきがより伝わるのはどの内容か」という観点で、タブレットのシンキングツール「ダイヤモンドランキング」を利用し、「伝えるべき優先順位」を話し合います。

○ 授業の様子（アンダーライン：今後の課題）

本時では、「町たんけん」に行った後、学習したことをまとめ、発表の準備を行いました。

まず、「町たんけん」で見学してきたこと、質問して分かったこと等をグループでまとめたものをもとに、**タブレットのシンキングツール「PMI」**を利用し、**情報の整理**をしました。「学んだこと」「なぜ1年生に伝えたいか」の観点に分けてまとめたことで、一つ一つの情報の中で、どの部分が町のすてきと言えるのかということについて考えをもつことにつながりました。

その後、明確にした自分の考えをもとに、グループで話し合う時間を設けました。話し合いでは、「1年生に発表する際、町のすてきがより伝わるのはどの内容か」という観点で、**タブレットのシンキングツール「ダイヤモンドランキング」**を利用しました。

グループにおける共有ノートでアプリ内のカードを**発表の優先度順に移動させながら**話し合ったことで、発表する内容についての根拠をもつことができました。話し合いでは、「1年生が驚きそうなこと」「町の人のがんばり」などの観点をはっきりさせながら、「これは、初めて知ったから上のほうにしよう」「暑い中ががんばって商品を作っているから、これがいいね」など意見を交し合う姿が見られました。

今回、シンキングツールを活用して実践を行ったことで、自分の考えに根拠をもつことにつながったり、話し合いの際には、グループ発表における方向性を定める一助になったりすることが分かりました。しかし、今回、シンキングツールの種類やツール自体の配置が複雑だったことで、使用に慣れるまで時間が掛かったという課題がありました。より効果的な活用とするためには、種類、使い方等をよりシンプルにして、使いこなすまでの時間を短くすることが大切であると考えます。



【ダイヤモンドランキングを使って話し合う様子】